

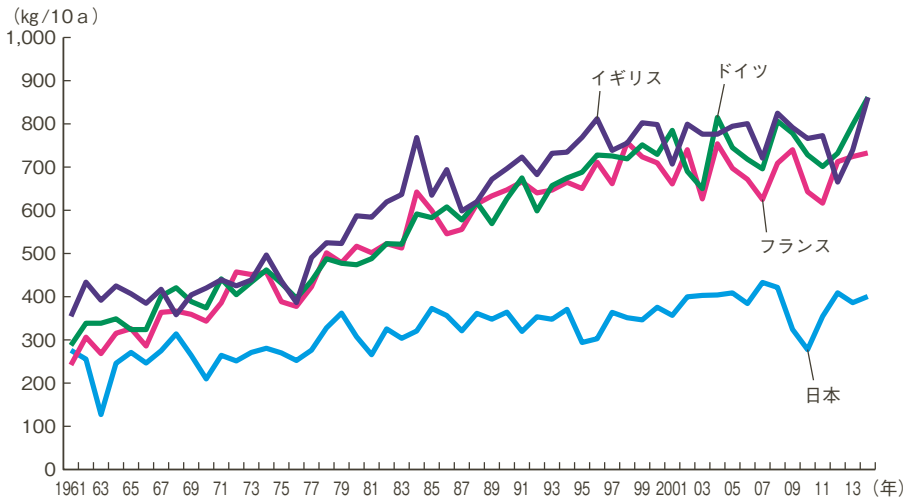
# 小麦1tどりは、 すぐそこにある！

『小麦1トンどり——薄播き・しっかり発芽 太茎でくす麦をなくす』より

現在、猛烈編集集中の書籍や雑誌、映像作品から、担当者がとっておきのニュースを紹介するコーナーです。今回は、小麦の栽培革命の話です。

北海道、超多収を実現した「きたほなみ」

図1 世界の小麦 10aあたり収量の推移 (FAO STAT統計より作成)



## グラフを見ていただき

たい。ヨーロッパ諸国と日本の、ここ半世紀ほどの小麦収量の推移である。日本がほとんど変化していないように見えるのに対し、ヨーロッパ諸国の伸びは著しい。

ドイツでは1961年に286kgであった反収が2014年には863kgへ、イギリスでは354kgが858kgへ、フランスでは240kgが753kgへと、軒並み倍増以上。いっぽう日本では、275kgがようやく401kgだ。

しかし今、停滞していた日本の小麦作に革命が起こりつつある。北海道農家の「きたほなみ」1tどり続出を突破口に、まだ試験的ではあるが、九州の水田裏作小麦でも1t突破の成果が現われ始めた。なぜ、急にこんなことが起きているのか？

現在編集集中の書籍『小麦1トンどり』には、じつにシンプルな小麦1tどりの技術が詰まっている。

図2 小麦の1tどり栽培イメージ (品種：きたほなみ)

播種：800～900本/㎡を確保

- 播種期：越冬前生育5.5葉を確保できる時期
- 播種量：140粒/㎡ (6～7kg/10a)
- 播種床：均一な播種深度で出芽率90%以上



穂数

650～700  
本/㎡

×

1穂粒数

36～38  
粒/穂

=

総粒数

25,000  
粒/㎡

×

千粒重

40g

=

1t

元肥減肥

チッソ4kg/10a  
程度とする

起生期追肥

幼穂形成期  
追肥 (穂肥)

止葉期追肥

止葉直下葉の葉色と  
茎数を勘案する

てるかが課題。

図は、小麦の1tどり栽培のイメージだ。1㎡当たり650～700本の穂があり、1穂に36～38粒がつき、千粒重が40gあれば、1tとれる。茎の数を立てることより、大きくて重い穂をつけることも倒れない太い茎を、いかに育てるかが課題。

「融雪後も、毎年変わるムギの生育状態に、倒伏が怖くて積極的に追肥もやれなかったんです。それを変えようというのが、この本のキモです」

「北海道の麦作農家には『播かぬタネは生えぬ!』という思い込みがありましてね。播種床を整備しないままたくさん播くものだから、毎年、秋の天候に振り回されて、越冬前の茎数、葉数はバラバラ……。融雪後も、毎年変わるムギの生育状態に、倒伏が怖くて積極的に追肥もやれなかったんです。それを変えようというのが、この本のキモです」

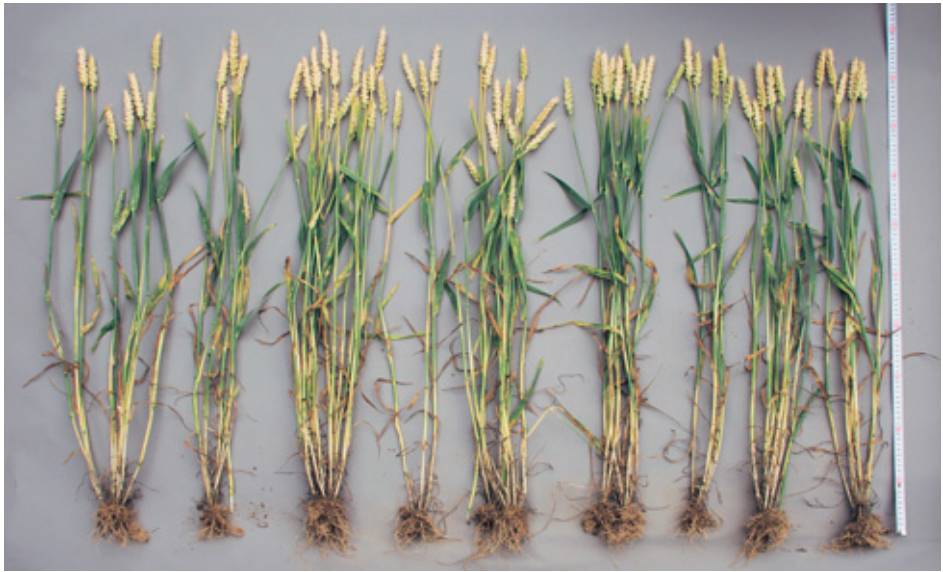
「北海道の麦作農家には『播かぬタネは生えぬ!』という思い込みがありましてね。播種床を整備しないままたくさん播くものだから、毎年、秋の天候に振り回されて、越冬前の茎数、葉数はバラバラ……。融雪後も、毎年変わるムギの生育状態に、倒伏が怖くて積極的に追肥もやれなかったんです。それを変えようというのが、この本のキモです」

「播き付け八部作」が、

越冬前、理想の5.5葉の生育  
(佐々木郁夫撮影)



多収の小麦、収穫10日前の姿。  
太い分けつ茎、大きな穂、緑濃い葉  
(佐々木郁夫撮影)



多収のためには「タネをたくさん播いてたくさんさんの穂をつける」必要はない。播種について気をつけることは以下の点だ。

**その1 播種期を守る** 越冬前生

育5.5葉を確保できる播種時期を守る。ここまで育つと越冬後も生き残り、穂になる確率が高い。

**その2 播種量を減らす** 1㎡あ

たり140粒播種(10a6〜7kg)。従来の播種量の半分以下だ。播種の精度を高めるため、播種機の調整が大事。

**その3 播種床作りがカギ** 少な

い播種量でもしっかり出芽させるには、播種深度が重要。そのためには、均一に鎮圧された播種床が欠かせない。

この本では、精度よく出芽させるための播種床作りの技、鎮圧装置の農家の工夫、そして精度よく播くための播種機の調整(キャリブレーション)方法を徹底的に追求している。



播種床の鎮圧に、農家の工夫。フロントにつけたタイヤ、前輪、リアのダブルタイヤ、さらに後ろの作業機につけた車輪で、広範囲を一度にすまなく鎮圧していく（北海道小清水町 加藤優さん）



九州にもこんな多収小麦があるのを見た。取材ノートが穂の上のにつかった（九州沖縄農研センターで）

## 小麦作は、播種をめぐる

この三つのポイントをおさえれば8割がた成功である。あとは、その年の気象と小麦の生育に合わせ、必要な追肥を施していけばよい。

安心して追肥できるよう、充実した茎に育てることが重要になる。ヨーロッパ諸国と日本の麦作との違いの一つは追肥の量。「ムギは肥料でとれ！」ということわざは、1t突破を目指す今こそ生きてくる。

### 『小麦1トンどり』

—— 薄播き・しつかり発芽  
太茎でくず麦をなくす

（高橋義雄 編著）は現在、8月発行をめざして全力編集中です。価格2000円十税、予約受付中。